稲城野草散策の会

野草スケッチ　ヒメトラノオ（ゴマノハグサ科）

1996/10/03　　川崎市麻生区口　　絵と文　Ｔａ

「神奈川県植物誌・1988」という分厚い本がある。
神奈川県を１０８のメッシュに分け、メッシュごとの植物分布を調べた記録である。
編集・発行は、神奈川県植物調査会と神奈川県立博物館の共同となっている。

会報第７０号　２０１０年１０月１７日発行　発行責任者　尼子　房夫

この本を入手したのは6～7年前であった。
神奈川県に限定しているが、それまで持っていた図鑑よりもずっと詳しく説明が載っており、最新の帰化植物についても情報が豊富だ。
曽根先生が亡くなられた直後、稲城野草散策の会の運営、というよりもわれわれの植物知識に不安を感じていた時期に、観察仲間からこの本の存在を教えてもらった。
植物についてもっと勉強するための本が欲しいと思っていた時期でもあった。

本を手にとって眺めてみると、単なる図鑑ではなく、膨大な調査に基づいた資料であることがわかる。
聞いたところによると、すべて標本を採集して確認しているのだという。
どれだけ歩き回ってどれだけの標本を集めたのだろう。
「神奈川県植物調査会」は博物館が指導しているボランティア団体らしい。
すごい人たちがメンバーなのだろうと思った。

その後何かのきっかけで、観察仲間のMさんをはじめ、私の知っている人も調査会のメンバーとして活躍していたことがわかってきた。
足で標本を稼ぐ人がいて、集まった標本をチェックし同定に誤りがないか調べる人は別にいるとのこと。
それならば、あやしいものを見つけて標本を送り込めばそれで何とかなる。
難しいものは博物館へ持ち込んで検討してもらうそうである。

神奈川県では定期的に植物誌を発行していて、次回は２００１年版だという。
その２００１年版の調査会に入らないか、との誘いがあった。
誘い主は観察仲間のＹさんで、すでに標本採集をはじめているという。
博物館の出先である青少年科学館（川崎市多摩区）へ出かけて手ほどきを受けた。
担当地区には黒川を選んだ。

９月の良く晴れた日、Ｙさんと黒川へ標本採集に出かけた。
そのとき見つけたのがヒメトラノオである。
ヒメトラノオは１９８８年版で見ても分布が少なく、２箇所での分布が確認されただけになっている。
いずれも神奈川県西部の山岳地帯である。
もちろん、黒川地区での分布は記載されていなかった。新発見だ。

黒川のその場所にヒメトラノオがあることは、じつは以前から知っていた。
しかし私だけが知っていても価値はないわけで、標本を送り、確認され、新分布として記載されれば、共通の知見となる。
ただ、そのとき、私はこれはヤマトラノオだと考えていた。
標本をチェックした結果、ヤマトラノオの変種、ヒメトラノオだったという通知をいただいた。葉柄が明確、という点がヤマトラノオとの区別点だという。

同じ日にゴマノハグサも採集した。
ゴマノハグサはゴマノハグサ科の代表選手であるが、日本では分布が少なく、植物仲間でも見たことがある人は少ない。
植物誌には「神奈川県では稀な植物」とあった。
これも貴重なデータになりそうだ。

標本採集に出かけたのはこのときが最初で最後となった。
標本を採ることも作ることも、私には性が合わなくて、調査会を辞めてしまったのだ。
私にはスケッチが相応のようである。（２０００年９月記）

＊　＊　＊　＊　＊

〔観察記録〕９月４日　水元公園

金町駅に集合した参加者は２７人、通常の観察会と比べるとずっと少ない人数ですが、３５℃を超すと予報があった猛暑ですから、よくぞこんなに集まったというのが、正直な感想でした。

金町駅から東武バスで桜土手バス停へ。この辺は水元公園の東南の外れです。ここから公園の北西の外れまで、公園を画するように、３キロ以上堤防の痕跡が続いています。バス停は桜土手ですが、公園の名称としては「さくら堤」というようです。公園の敷地は以前「小合溜（こあいだめ）」と呼ばれる、中川の遊水地と灌漑池を兼ねた施設で、「さくら堤」はその中心的な役割を担う構造物です。

ちょっと知ったかぶりをすると、小合溜は１８世紀前半、井沢弥惣兵衛によって計画施工されました。井沢弥惣兵衛は他にも見沼代用水、鴻沼新田など、江戸中期の大規模土木工事を手がけた人物で、木曾三川分流工事のグランドデザインも描いています。１７世紀の関東郡代伊奈家の関東流に対して、紀州流と呼ばれる治水思想と工法を展開し、日本土木学会なども、近代日本土木の出発点と評しています。

知ったかぶりはともかく、アササ池、オニバス池など、旧水産試験所跡地をめぐり斜張橋の水元大橋の手前で、早めの昼食タイムとなりました。日なたは確かに猛烈に暑いのですが、湿度が低かったためか、日影にはいると涼やかな風も吹き、雄大な風景もあって、なかなか気分のいい昼食タイムでした。

午後は、まず駐車場脇の土手上で保護されているフジバカマを見に行きました。昨年は8月末だったのに結構開花していましたが、今年はほとんど蕾状態、暑さのせいかどの個体もしおれて情けない姿です。その後は、お目当てのミズネコノオを求めて水生植物園へ。ミズネコノオも何とか咲き残っていましたし、タコノアシも咲いていましたが、なにしろ一番暑い時間帯なので、日を遮るものがない水生植物園はとんでもない暑さでした。観察もそこそこに、冷房が効いているグリーンプラザに逃げ込んで涼をとりました。

今回の観察会は熱中症を危惧して早めにリタイアする人も何人かいらっしゃいました。正解の判断だと思います。参加者の多くはもう若くないのですから、今後も「無理をしない」を肝に銘じて、楽しい観察会にしましょう。

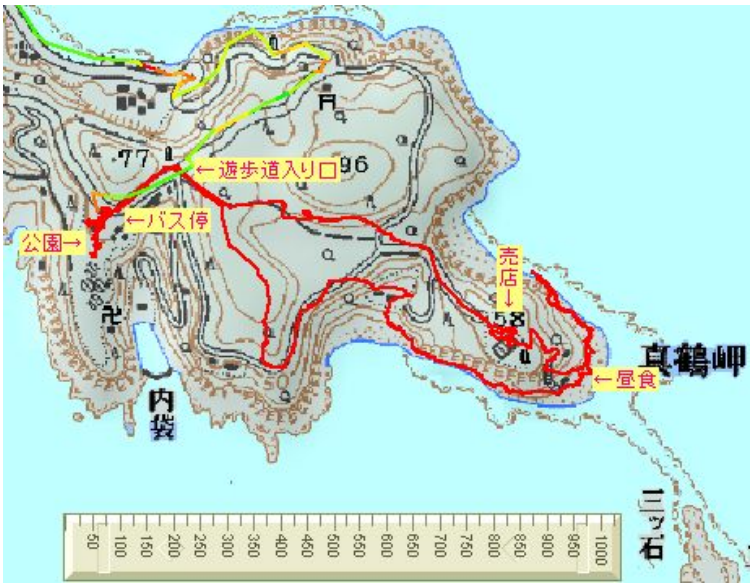
いつものことですが、アナウンス係の浅岡さん、名札貼り係のふうさん、名札回収係のぽんこさんに感謝です。この方たちのおかげで、稲城の観察会は成り立っているのです。

ほんまさん、たざわさん、早々の写真のアップ、有難うございました。

▼最後にアナウンスのあった植物名を列挙します。

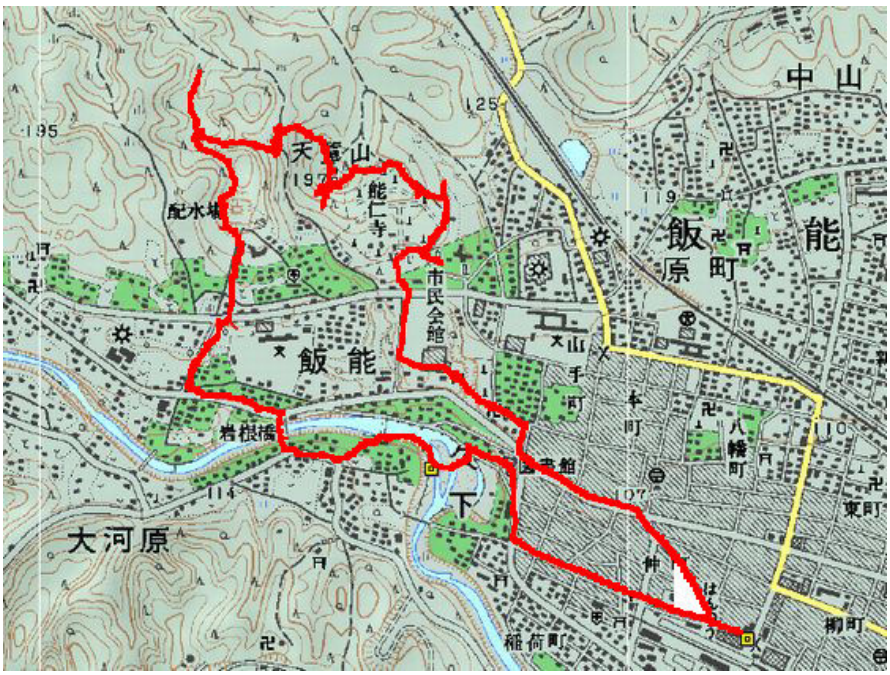
(1)セイバンモロコシ、(2)ハゴロモモ(花)、(3)アササ(花)、(4)ヒシ(花)、(5)ハンノキ(実)、(6)イヌコリヤナギ、(7)オニバス(花)、(8)ノブドウ(花)、(9)エノキ(実)、(10)ヤブガラシ(花)、(11)ハス(実)、(12)コリヤナギ、(13)ニシキギ、(14)ヤマハギ(花)、(15)ヘクソカズラ、(16)マユミ(実)、(17)ミソハギ(花)、(18)コゴメイ、(19)ゴマギ、(20)カワヤナギ、(21)アゾラ(オオアカウキクサ近縁の外来種)、(22)シダレヤナギ、(23)シマスズメノヒエ、(24)タチスズメノヒエ、(25)ヒメクグ、(26)コツブキンエノコロ、(27)サンゴジュ(実)、(28)ゴキヅル(花)、(29)サデクサ、(31)チョウジタデ(花)、(32)アキニレ、(33)カロリナポプラ、(34)ヤマイ、(35)カワラスガナ、(36)イヌビエ、(37)メヒシバ、(38)オヒシバ、(39)ラクウショウ(実)、(40)ケイヌビエ、(41)ミコシガヤ、(42)フジバカマ(花)、(43)センニンソウ(花)、(44)エンジュ(花)、(45)クスノキ(実)、(46)コウホネ(花)、(47)スズメウリ(花)、(48)サイカチ、(49)マコモ、(50)ヌマトラノオ(花)、(51)タコノアシ(花)、(52)サンカクイ、(53)ミズネコノオ(花)、(54)ミズガヤツリ、(55)ミゾカクシ(花)、(56)タマガヤツリ、(57)チゴザサ

〔行事予定〕2010/10/17（日）　真鶴

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、ＪＲ東海道本線真鶴駅　改札口付近　※会旗目標 ＪＲ東海道本線真鶴駅の改札口は一個所だけです
交　通	ＪＲ東海道本線（またはＪＲ湘南新宿ライン）をご利用下さい 小田原まで小田急線を利用すれば安上がりです 真鶴駅発ケープ真鶴行１０：００のバスに乗ります 真鶴駅発ケープ真鶴行０９：３０のバスで先行して、お林展望公園で待合せも出来ます 真鶴駅には１０：１５くらいまで世話役がいます
行く先 （解散場所）	真鶴遊歩道散策（真鶴駅　ｐｍ４時頃解散予定）
見所 その他	海岸の植物、シダ
地　図	
コース	真鶴駅（１０：００）…（バス）…中川一政美術館→十字路→森林浴遊歩道（ムラサキニガナ）→番場浦遊歩道→潮騒遊歩道→海岸で昼食→ケープ真鶴→お林遊歩道→十字路 →灯明山→十字路（戻る）→中川一政美術館（お林展望公園）…（バス）…真鶴駅 コースは天候その他により変更する場合があります ご用のある方は途中で抜けても構いません

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円

〔行事予定〕2010/11/14（日）　天覧山

項　目	説　明
集　合	ａｍ１０時、西武池袋線飯能駅　※会旗目標 ※小雨決行 改札口は一箇所です
交　通	地下鉄副都心線 準急：澁谷８：３９→新宿三丁目８：４５→池袋（副都心線）８：５１→練馬９：０２→所沢９：２６→飯能９：５１ （西武池袋からは、練馬で乗り換えになります） 西武池袋線 急行：西武池袋８：５０→所沢９：１３→飯能９：３７
行く先 (解散場所)	天覧山 西武池袋線飯能駅　ｐｍ３時半頃解散予定
見所 その他	木の実、草の実
地　図	
コース	飯能駅→天覧山→飯能駅（１５：３０頃）

※小雨決行　参加申込み不要、会費当日３００円